令 和 ３ 年 度 事 業 の 概 況

（令和３年４月１日～令和４年３月３１日）

令和３年度は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症に翻弄される１年となりました。

経済面では、新型コロナの影響で各国の工場が操業を停止し、サプライチェーンが寸断される等、多くの企業が大変な苦労を強いられました。

社会面では、７月および８月には、緊急事態宣言下で東京オリンピック・パラリンピックが開催されましたが、同時期に集中豪雨が発生し甚大な被害をもたらしました。

国際面では、冬季の北京オリンピック終了直後の２月に、突如としてロシアがウクライナを侵攻し、国際社会に大きな不安をもたらしました。

そのような中、原油市場の高騰もあってアメリカの消費者物価は急上昇し、ＦＲＢは金利の引き上げを実施し、金融引き締め政策に転換しました。

一方、日本銀行は金融緩和政策を維持したことから、日米の金利差が拡大したため為替は大きく円安に振れる等、金融市場は混乱しました。

当組合の第三次中期経営計画では、『医療界のベストバンクを目指す』として、先生方に的確かつ迅速な金融サービスを提供してお客さまの満足度向上を図ることにしております。

当組合としましては、先生方のお役にたてるよう、預金金利は出来る限り高く、貸出金利は出来る限り低く設定しております。その結果、令和４年３月末の実績につきまして、預金の年間増加額は 1,525 百万円となり、安定的な増加を図ることができました。一方、貸出金につきましては、新規開業の先送り等により年間増加額は△179 百万円と減少しました。収益につきましては、不良債権の処理により減益となりましたが、当期純利益は 84 百万円と相応の利益は確保しました。経営体力につきましては、自己資本比率は 23%台と高い水準を維持しております。組合員数につきましては、年間で 28 名加入しましたが、31 名の脱退があり３名減少しました。

今年度も、当組合の使命達成のため邁進したく、引き続き当組合をご利用賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

（単位：百万円）

主　要　勘　定	当期末（4.3.31）	前期末（3.3.31）	増　減
総　預　金 （期中平均残高）	38,182 (37,377)	36,657 (35,731)	1,525 (1,646)
総　貸　出 （期中平均残高）	6,369 (6,433)	6,548 (6,433)	△179 (0)
有　価　証　券 （期中平均残高）	25,677 (24,685)	24,991 (23,659)	686 (1,026)
預　け　金 （期中平均残高）	16,229 (15,591)	14,926 (14,312)	1,303 (1,279)
コア業務純益	148	128	20
経　常　利　益	112	124	△12
当　期　純　利　益	84	88	△4
自己資本比率	23.06%	24.47%	△1.41%
組　合　員　数	1,317 先	1,320 先	△3 先

富山県医師信用組合